

男子バスケ 新人戦で善戦 今後に期待大

TEIKYO HEISEI Sports Journal

Vol.10

対東洋大戦第4ピリオド、相手の二人がかりのマークを受けながらシュートするアデルシ・ジェシー選手。(秋山哲也撮影)

第65回関東大学バスケットボール 新人戦 12位

第65回関東大学バスケットボール新人戦の本戦が、6月3日から6月8日まで開催された。本戦には40校が参加。トーナメント形式で優勝を争った。昨年2回戦敗退だった本学は、ベスト16に駒を進め、順位決定戦の末、12位だった。優勝は東海大で、2年連続8回目。

本学は、1回戦で杏林大に89-80で勝利。2回戦では昨年5位の日本大を78-54で撃破し、3回戦では、昨年度2回戦で対戦し敗北を喫した早稲田大と対戦。第4ピリオドまで有利に試

合を進めたが、74-75と1点差に泣いた。順位決定戦では、東洋大に82-71で勝利したものの、大東文化大に50-79で敗れ、11位決定戦でも日体大に73-81で敗れた。

これに先立って、4月29日から5月4日まで開催された第74回関東大学バスケットボール選手権大会の本戦では、初戦の国際基督教大には72-48で勝利したが、2回戦で白鷗大に54-87で敗れ、2回戦敗退に終わった。

(野村彩乃、大山航平)



9位決定トーナメントの初戦で東洋大学を下し笑顔がこぼれる本学チーム (秋山哲也撮影)



1 回裏 2 死 2、3 塁、吉田 33 は内野ゴロに倒れ得点ならず（今井和樹撮影）

東都3部春季リーグ終了

3位で悲願達成は持ち越し

東都大学野球春季3部リーグは6月22日、全日程を終了した。昨シーズン3部リーグ優勝を果たした本学だったが、開幕から連敗が続き、苦しいスタートとなった。中盤からは立て直し、最終成績は6勝5敗の勝ち点3で3位に終わった。3部は、本学のほか、上智大、大正大、学習院大、順天堂大、成蹊大の計6校による総当たり戦で、2戦先取の勝ち点で順位を争った。本学は、2部昇格を目指したが、来季以降に持ち越しとなった。

第1週の対上智大戦で2連敗を喫した本学は、第2週の成蹊大戦で、1回戦が1-8の大敗。2回戦を3-1で勝利した。3回戦では、3点を追う2回に同点に追いつくと、8回には1死満塁から敵失や押し出し、6番小原（鈴）のセクター前ヒットなどで一挙4点を入れるなど、8-5で快勝した。

続く第3週の対順天堂大戦では、1回戦が0-11で大敗、2回戦も2-5で連敗した。

第4週は学習院大戦で、1回戦は2回表、2点を先制。4回に1点を追加した。3回、4回に1点ずつを返されたが、3-2で逃げ

切った。2回戦は、2回裏、2点を先制。3回に同点に追いつかれたが、4回には井田の2点タイムリーと敵失で3点を追加。5回にも前本の三塁打、渡邊（侑）のタイムリーで1点、7回には熊谷のスライズでさらに1点を加え、7-4で勝った。

最終第5週では大正大を相手に、1回戦では、2回表に4番木戸脇、7番井田の

ヒットで1点先制。4回表にも井田のタイムリーなどで2点を追加。6回表には、前本、伊東（洸）、木戸脇のヒットで3点を加えた。6回、8回に得点を許したが、6-3で逃げ切った。2回戦では、7-7の同点で突入したタイブレークの延長10回裏、2死二、三塁から1番前本がレフトにタイムリーヒットを放ちサヨナラ勝ちした。（内ヶ崎陸斗）



順天堂大学に2対5で、敗れた帝京平成大学（久保田妃菜撮影）

◆監督・共同主将コメント

【原克隆監督】

今シーズンは、1・2年生主体のメンバー構成で戦った。経験不足から本学のペースでプレーができなかったが、シーズンを通して確実にチーム力は上がっている。秋は実力を発揮したい。

【井田駿吾主将】

リーグ戦前半では、チームとしてやるべきことを徹底できず悔しい思いをした。もう一度基礎から見直し秋に臨みたい。

【伊東洸佑主将】

チームとしての課題が明確になったシーズンだった。今季はとても悔しい思いをしたので、秋までに課題を克服し、2部昇格に向けて全力を挙げる。



先発の酒井投手（大山航平撮影）

3 部星取表										
順位	順大	学習院大	帝平大	大正大	上智大	成蹊大	勝数	負数	勝率	勝点
1 順大	—	○●●	○○	●○○	○○	○○	9	3	0.750	4
2 学習院大	●○○	—	●●	○○	○○	○●○	8	4	0.667	4
3 帝平大	●●	○○	—	○○	●●	●○○	6	5	0.545	3
4 大正大	○●●	●●	●●	—	○○	●○○	5	7	0.417	2
5 上智大	●●	●●	○○	●●	—	○●○	4	7	0.364	2
6 成蹊大	●●	●○●	○●●	○●●	●○●	—	4	10	0.286	0



1 回戦甲南大の宮崎から小外掛で一本を取るカフレ・ジュリアーノ（大山航平撮影）

全日本学生柔道優勝大会

男女共に三回戦敗退

団体戦で大学日本一を争う全日本学生柔道優勝大会（男子第74回、女子34回）が6月28、29日、東京・九段下の日本武道館で開催された。

体重無差別で争う7人制の男子の部には全国9地区の予選を経た63校が出場。本学は、1日目の一回戦対甲南大（関西）戦で、次鋒・菊池、三将・カフレ・ジュリアーノ、副将・山田、大将・武田が一本勝ちを決めるなど、5-0と快勝。2回戦では帝京科学大（東京）を相手に、次鋒・カフレが合わせ技で一本勝ちを決めるなど4-1と勝利した。しかし、翌日の3回戦では東洋大（東京）に0-4と完敗、涙を飲んだ。優勝は日大

で、28年ぶり6度目。

28日に行われた体重別5人制の女子の部には全国9地区の予選を経た35校が出場し、熱戦を繰り広げた。

2回戦からの登場となった本学は、初戦を帝京科学大（東京）と対戦。先鋒・山中の大外刈りの技ありが決まり手となり、1-0で勝利。続く3回戦では東京学芸大（東京）と対戦。次鋒・椿原、中堅・吉田、副将・山崎が健闘し引き分けたが、先鋒・山中、大将・佐藤が負け、0-2で敗れた。昨年と同じベスト16に終わった。優勝は環太平洋大で、2年ぶり4度目。

（大山航平）



2 回戦、得意の内股で有効を取る武田（大山航平撮影）

今後に向けて

女子柔道部 佐藤こよみ主将

Q. 普段のチームの雰囲気は？

A. みんな「明るく」「楽しく」やっている中で、「やる時はやる」を徹底して着実に身につけながらやっています。

Q. 練習のどのようなところが試合に活かたか。

A. 特にラントレなどのメニューに力を入れて練習していました。体力面を強化するような練習メニューを中心に励みました。

Q. 関東学生柔道優勝大会全体を振り返って。

A. ここ最近の課題が直らなかったことや、それが出てしまったことが課題でした。全日本に向けては一人一人が自分の仕事を果たし、一勝に繋がれるようにやっていきたいと思う。

男子柔道部 斎藤将輝主将

Q. 普段のチームの雰囲気は？

A. 普段から全体的に明るく、4年生が積極的に下級生に声をかけています。3年生や2年生も一緒に盛り上げてくれています。自分が見えていないところを副主将が上手くサポートしてくれていて、全員が集中して練習に取り組んでいると思います。

Q. 練習のどのようなところが試合に活かたか。

A. 試合前は追い込みの練習があるのですが、疲れた中でも一つでも多く技を出すというところを今回意識して取り組んでいました。その取り組みが3試合目の国際武道戦ではでており、一人一人が最後の最後まで積極的に技を出していました。

Q. 関東学生柔道優勝大会全体を振り返って。

A. 悪い流れのまあいってしまうことがあり、切り替えるという点が課題としてみえたと思います。悪い雰囲気のままいかず、各個人がよい流れにもっていきけるように今後はしていきたいと思います。



3位に入賞した女子柔道部（大山航平撮影）

関東学生柔道優勝大会 女子柔道部3位

関東学生柔道連盟加盟の

は山梨学院大。

大学が団体戦で優勝を争う関東学生柔道優勝大会が5月24日に千葉県の東金アリーナで開催された。

女子1部は5人制で、本学の他に筑波大、淑徳大、国際武道大、山梨学院大、平成国際大の計6校が出場。予選リーグはA、Bの2グループに分かれ、各グループ1位校が決勝戦で王座を争った。

本学はBブロックで平成国際大と山梨学院大と対戦。平成国際大に優勢勝ちしたものの山梨学院大に敗れ、予選リーグ敗退。順位決定戦は行われず、淑徳大とともに3位だった。優勝

7人制の男子1部はトーナメント形式で行われた。1部は本学のほか、筑波大、流通経済大、清和大学、桐蔭横浜大、国際武道大、山梨学院大の全7校。優勝は筑波大で、3連覇。

本学は、初戦で流通経済大に1-3で敗れ、5位決定戦でも清和大学に2-4で敗れた。6・7位決定戦では国際武道大と対戦し、先鋒・斎藤が大外刈り、次鋒・武田が内股を決めるなど一本勝ちを重ね、4-0で勝利した。本学は、6位だった。（大山航平）

関東大学女子サッカーリーグ1部 3位で折り返し

チームの完成度を 高めて優勝へ

第39回関東大学女子サッカーリーグ1部。本学は、6月14日の神奈川大戦を2-1で勝利し、前期日程を終了した。第5節終了時点で4勝1分けだった本学は、それ以降、2勝2敗2分けで、前期最終戦績は6勝2敗3分。前半を3位で折り返した。昨年5位に終わった本学は、リーグ優勝

を目指して後期に入る。

1部は、本学のほか東洋大、日本大、山梨学院大、神奈川大、十文字学園女子大、東京国際大、筑波大、早稲田大、日本体育大、東海大、大東亜文化大の計12校で構成。前期、後期の2シーズンを戦い、上位8チームは、年末年始の全日本大学選手権に出場する。

前期を終えて、「チームとして徹底する点をミーティングで共有しており、どの試合でも全員が共通認識を持って臨むことができた。負け試合もあったが、練習の取り組み姿勢を見直して最後は勝利で終わることができた」と振り返った。そのうえで、後期に向けて、「今よりギアを上げてチームの完成度を高めていく」と決意を語った。

太田 凧 主将（健康医療スポーツ学部4年）は

（久保田妃菜、内ヶ崎陸斗、野村彩乃）



神奈川大戦前半2分、鈴木が先取点を決める。（大山航平撮影）



神奈川大戦後半10分に右CKから太田がヘディングシュートするも決まらず。（大山航平撮影）

【詳報】

第6節 日本大戦

2-2

試合開始直後の前半4分にFW辻彩花が得点。13分にもFW秋田萌絵がゴールを決めたが、後半に2点を返され引き分けに終わった。

第7節 東京国際大戦

0-2

前半46分に先制された。後半には、82分にもゴールを決められ、巻き返すことができなかった。

第8節 東洋大戦

0-2

前半0-0のまま後半に突入し、2点奪われた。

第9節 早稲田大戦

1-1

前半20分にFW太田凧が得点したが、試合終了間際にゴールを許し、引き分けで終わった。

第10節 大東文化大戦

6-0

前半22分にDF鈴木董が2点、後半に太田凧がハットトリックを達成し、快勝した。

第11節 神奈川大戦

2-1

試合開始早々の2分、DFの鈴木董が先制のゴールを決めた。20分に1点を返されたが、後半に入って、67分にFWの太田凧がPKを決めた。

星取表

	東洋	山学	早稲田	日体大	帝平	十文字	東国	筑波	日大	神大	東海	大東
東洋大学	\	0●1	1○0	0△0	2○0	1●2	3○1	4○0	2○1	2○0	1△1	3○0
山梨学院大学	1○0	\	3△3	0●2	1●3	1○0	0●1	3○0	1●2	0●2	2○0	5○0
早稲田大学	0●1	3△3	\	2○1	1△1	3○1	2●3	2○0	2○1	0●1	4○0	3○1
日本体育大学	0△0	2○0	1●2	\	0●1	1●2	0●3	1○0	1●3	2○1	3○0	1●3
帝京平成大学	0●2	3○1	1△1	1○0	\	0△0	0●2	1○0	2△2	2○1	2○0	6○0
十文字学園女子大学	2○1	0●1	1●3	2○1	0△0	\	0△0	3○0	1●2	0△0	4○0	3○0
東京国際大学	1●3	1○0	3○2	3○0	2○0	0△0	\	4○0	3○1	1△1	1○0	4○0
筑波大学	0●4	0●3	0●2	0●1	0●1	0●3	0●4	\	1△1	0△0	0●2	0●1
日本大学	1●2	2○1	1●2	3○1	2△2	2○1	1●3	1△1	\	0●1	3○1	2●3
神奈川大学	0●2	2○0	1○0	1●2	1●2	0△0	1△1	0△0	1○0	\	2○1	2○1
東海大学	1△1	0●2	0●4	0●3	0●2	0●4	0●1	2○0	1●3	1●2	\	1○0
大東文化大学	0●3	0●5	1●3	3○1	0●6	0●3		1○0	3○2	1●2	0●1	\

千葉県大学サッカーリーグ1部 2位で折り返し

千葉県大学サッカーリーグ1部（5月4日開幕）。本学は、昨年の千葉県大学サッカーリーグ2部で優勝し、1部復帰を果たしている。前期終了時点の戦績は3勝2敗2分。勝ち点11で2位と優勝を狙える位置につけている。前半こそ調子が上がらなかったものの、第6節の神田外国語大戦では9-1で大勝するなど勝利を重ねた。目標の「関東リーグ昇格」に向けて後期を戦う。

1部は城西国際大、千葉商科大、淑徳大、千葉大、

江戸川大、明海大、神田外国語大の計8チームで構成。主将の池田歩柊（健康医療スポーツ学部3年）は「前期リーグ戦は、ほとんどが1点差ゲームで簡単な試合はありませんでしたが、連続で失点しなくなったことはとてもポジティブに捉えられる部分です。後期も厳しい試合が続くと思います。どっちに勝利が転がるかわからない試合を自分たちに持ってくるために学校生活を含め、細かいところに目を向けていきます」と語った。（大山航平）

編集後記

TEIKYO HEISEI Sports Journal vol.10をお届けします。創刊号発行から3年が経ち、本号で10号を迎えました。今号では、男子バスケットボール部をフロントで取り上げました。新人戦では、2回戦で昨年の同大会5位の日大を下し、3回戦では早稲田大にあと一步と迫りました。今後の活躍に期待大です。女子サッカー部は前半を3位で折り返し、後期に優勝がかかります。硬式野球部は、昨年度秋に3部リーグを制して2部昇格という悲願達成が期待されていましたが、残念ながら今季は3位に終わりました。メディア部を含めそれぞれの部で課題が見つかり今後の躍進に向けて歩みを進めています。（代表：大山航平）

本号は、大山航平、長島優希、野崎浩洋、久保田妃菜、北田空来、内ヶ崎陸斗、野村彩乃が担当しました。

「会場の空気感 そのままメディアに！」
3年 大山航平

「最高の瞬間を記事に！」
3年 野崎浩洋

「逃してたまるか 選手の鼓動」
3年 若松俊人

「次世代に繋げるメディアに」
3年 長島優希

「熱意を届ける記事を書く！」
3年 桑田祥吾

新入部員大募集！！

「皆んなの足引っ張らない様に」
2年 北田空来

「選手の気持ちを見る人たちに」
2年 久保田妃菜

「奇跡の一瞬を撮る」
2年 今井和樹

「スポーツの面白さを伝える記事を作ります！」
1年 内ヶ崎陸斗

「目の前の熱をリアルに届ける」
1年 野村彩乃

入部希望者は代表まで！

代表者：大山航平（人文社会学部3年） mail：323D15029@edu.thu.ac.jp